

島根・白坏遺跡
しらつぎ

- 1 所在地 島根県大田市水上町白坏
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)十一月～一九八八年一月、五月～七月

3 発掘機関 大田市教育委員会

4 調査担当者 遠藤浩巳

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古墳時代後期～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(温泉津)

白坏遺跡は、大田市街地より南へ約一四kmの西から東へ延びる丘陵の谷および谷の出口に形成された扇状地上に位置する。一九八八年に小学校の建設が計画されたのにもない発掘調査を実施した。この付近の水田には奈良時代の中心とする時期の遺物の散布が認められており、当該時期の遺構の存在が予

想されたが、調査の結果、谷の中央部に東流する古墳時代以降の幅五～八mの自然流路を検出し、その北側に奈良時代以降の建物跡を確認した。かなりの数の柱穴と思われるピットを検出し、また中世後期の渡来銭の出土等から、古墳時代から中世後期までの長期にわたって営まれた複合遺跡であることが明らかとなったが、遺構・遺物の中心は奈良・平安時代である。木簡は谷の中央を流れていた自然流路の岸辺付近から、多数の木製品・土師器・須恵器とともに二五点出土した。また四点の墨書土器(「大」二、「上内」一、「梨」一)、一点のヘラ書土器もこの岸辺付近から出土している。

8 木簡の积文・内容

- | | | |
|-----|------------------------|----------------|
| (1) | 〔 ^{〔嶋カ〕} 主 千嶋 | (195)×23×4 019 |
| (2) | □嶋 | (83)×21×2 081 |
| (3) | 「<止知一斛 尚世名>」 | 158×29×8 031 |
| (4) | 小豆六斗 | (111)×27×7 081 |
| (5) | 大豆五 | (88)×30×7 081 |
| (6) | 豊成 稻也>」 | (135)×32×6 039 |
| (7) | 「小豆 | (127)×18×5 019 |

(8)	「小豆」	(88)×17×5	019
(9)	「三百丸」	(87)×19×3	019
(10)	「主カ」 □□	(116)×22×5	059
(11)	□利生	(158)×(49)×9	081
(12)	「真成」	(150)×23×6	019
(13)	「人上」三主	(107)×19×4	019
(14)	「小月」長	(112)×21×5	019
(15)	「県主」	(66)×24×3	019
(16)	□賜而 別召	(100)×24×4	059
(17)	1 × □□ 三九廿 × 四九廿 × 五 × 六九 □ × 七九 × 八九七 × 九 × □□	(89)×(44)×5	081
(18)	七 八 □ 八 九	(89)×(44)×5	081

木簡は二五点出土しているが判読の可能なものを右に掲げた。これらの内容については物品に付けられた付札・荷札がほとんどであるが、(17)・(18)のように九九の木簡と思われるものも出土している。(17)は九の段で上に変数、下に定数の九を置いている。九九の木簡の出土例は古代に限れば平城京・藤原宮・平安京・長岡京・但馬国府・奈良稗田遺跡などが知られており、畿内周辺以外の地方での出土例として貴重な資料といえよう。

他のものは(3)・(4)・(5)のように物品名を記載したもの、(13)・(14)・(15)のように人名を記載したと思われるものの二種に大別できそうである。(3)の木簡は「止知」＝柝の実のことと推測され、当時の食事や植生を考える上で興味深い資料である。また判読が困難なものの中に文書木簡が一点あり、今後の分析・検討が必要と思われる。

(遠藤浩巳)